

2020年度（2020.4.1～2021.3.31）事業報告・決算報告

I. 2020年度 事業報告

当財団は青少年の健全育成を目的として1974年に設立され、現在は子ども文庫助成事業と電子図書普及事業を行っています。子ども文庫助成は1975年より継続して実施している事業で2020年度は91の団体を助成しました。電子図書普及事業は、2010年からマルチメディアDAISY図書の製作を開始し、当年度は1,475ヶ所に配布しました。

子ども文庫助成事業

2020年度の子ども文庫助成事業は、国内外から合計で128件の皆様にご応募いただき、その内、子どもの読書活動を支援するボランティアや病院施設等非営利団体の皆様へ購入費助成を63件、100冊の図書セットを26件、功労賞2件、合計91件に助成いたしました。その他の読書支援として、東南アジアの子どもたちに向けた「シャンティ絵本を届ける運動」500冊、及び12の小学校に被災地支援として図書を届けました。

1. 2020年度 助成件数・金額

本年度の助成件数・金額は、以下の通り。

()内は海外件数、内数 (単位：百万円)

	予 算		応募件数	実 績	
	助成件数	助成金額		助成件数	助成金額
① 子どもの本購入費助成	45	13.5	61 (3)	48 (3)	14.4
② 病院読書支援 購入費助成	10	3.0	22 (1)	15 (1)	4.5
③ 子どもの本100冊助成	30	4.5	40 (6)	26 (6)	3.9
④ 子ども文庫功労賞	2	0.7	5 (0)	2 (0)	0.7
⑤ その他読書支援					
シャンティ絵本を送る活動		2.3			1.6
被災地支援	12校	1.6		12校	1.9
小 計		25.7	128 (10)	91 (10)	27.0
(内、指定寄付金に基づく助成)		(2.8)			(0.0)
贈呈式 費用 ※1		7.8			0.2
その他 事業費 ※2		11.3			8.8
人件費		18.8			19.3
合 計		<u>63.6</u>			<u>55.3</u>

※1 贈呈式は新型コロナの影響で延期したため、贈呈状の作成費のみとなりました。

※2 その他事業費の減少は、主に新型コロナの影響で全国各地への出張訪問に行けず、オンライン面談となったことによるものです。

2. 子ども文庫助成事業プログラム概要

①子どもの本購入費助成（現金助成）

- ・対象
子ども文庫、読み聞かせ団体、子ども文庫連絡会等で、3年以上の活動歴があるボランティア団体等。
- ・内容
児童書、絵本などの書籍や備品購入、及び講習会開催等に1件当たり30万円助成。

②病院・施設子ども読書活動費助成（現金助成）

- ・対象
病院内で療養中の子どもたち、障害児施設、養護施設等の子どもたちに対し、読書啓発活動を行う、3年以上の活動歴がある読書ボランティア団体及び非営利団体等。
- ・内容
子どもたちが読書を楽しむための図書等の購入、及び障害のある子どもたちに対する支援機器等の購入、図書作成のための費用を含み30万円助成。

③子どもの本100冊助成（図書現物助成）

- ・対象
上記①、②共通。ただし、活動歴は問わない。
- ・内容
当財団が選書した100冊の児童書セット（小学校低・中・高学年別の3種類及び150冊リスト）のうち1セットを贈呈。

④子ども文庫功労賞

- ・対象
子ども文庫を長年に亘り（20年以上）運営されてきた個人で、子どもたちの読書啓発活動に貢献されてきた方。第三者の推薦による申し込み。
- ・内容
賞状、副賞（30万円及び記念品）

⑤その他読書支援

●シャンティの絵本を東南アジアの子どもたちへ届ける活動

- ・対象
カンボジア、ラオス、アフガニスタン、ミャンマーの子どもたち。
- ・内容
シャンティ国際ボランティア会が提供する日本語の絵本に現地語の翻訳シールを貼り、東南アジアの子どもたちに本を届ける運動。東日本大震災の被災地の子どもたちや、伊藤忠商事社員が活動に参加し、2020年度は500冊を送りました。

●被災地支援

- ・内容
全国学校図書館協議会にご協力頂き、東日本大震災で岩手・宮城・福島の子の8小学校、令和元年東日本台風被害で長野県の3小学校、令和2年7月豪雨災害で福岡県の1小学校、合計で12校に12セットの図書を寄贈しました。

電子図書普及事業

障害があるために、通常の書籍では読むことが困難な子どもたちの読書機会を提供するため、児童書を電子化し「わいわい文庫」と名づけ、全国の図書館や特別支援学校等へ寄贈しています。あわせて、その啓蒙活動として、障害のある子どもたちの読書支援者をサポートする「読書バリアフリー研究会」の開催や「福祉機器展」等への出展を全国各地で行っています。

1. 電子図書の製作、配布

2019 年度に製作した電子図書 91 作品を 2020 年度に 1,475 団体に寄贈しました。また、当年度は 72 作品を製作し 2021 年度に寄贈する予定。最近の特徴として、普通学校（特別支援学級）からの寄贈依頼が増えており、当年度も 44 校増加しております。なお、2015 年から各地の図書館に協力を求め製作している「日本昔話の旅シリーズ」は、累計 59 作品に増加したことに加え、日本障がい者スポーツ協会、(株)ヤナセ様などの協力を得て、各団体のパンフレット等を電子化し作品の幅も広げました。

配布年度	2018 年度	2019 年度	2020 年度	2021 年度
寄贈作品数	74	83	91	72
寄贈先	1,318	1,431	1,475	1,600 (予)

・ 国立国会図書館からのデータ配信開始

2021 年 2 月から、国立国会図書館の「視覚障害者等用データ送信サービス」へ「わいわい文庫」419 作品を提供し、障害者の方々がネット上でダウンロードして利用できるようになりました。

2. 定期刊行物の発行

「わいわい文庫」の利用促進と利用者の利便性向上を目指し、「わいわい文庫活用術⑨」、及び、作品をカテゴリー別に分けた「わいわい文庫 Area Map」を作成しました。

3. 電子図書の啓蒙活動

① 読書バリアフリー研究会の開催

各地の公共図書館の協力のもと、文部科学省、公益社団法人全国学校図書館協議会、開催地の教育委員会の後援を得て、障害のある子どもたちへの読書支援に必要な知識や方法を教職員、図書館員、ボランティアの皆様にご覧いただくことを目的に、大学教授などの専門家を招き研究会を開催しています。2020 年度は全国 8 か所での開催を予定していましたが、新型コロナの影響ですべて中止となりました。

② 動画制作とその配信

上記①読書バリアフリー研究会の中止を受け、その代替として財団ホームページ上に、「Web セミナー」として下記動画 2 本を制作し配信しました。

- ・ 読むことのバリアとバリアフリー資料（専修大学文学部教授 野口武悟）
- ・ わいわい文庫の紹介（国立国会図書館での使い方）

③ バリアフリー資料展の開催支援

新型コロナの影響で全国の図書館の行事が中止となる中、わいわい文庫寄贈の図書館に「バリアフリー資料展」の開催を呼びかけ、全国 35 の図書館にご応募いただきました。その内、22 の図書館が所蔵の資料と当財団から貸し出した電子図書、及びタブレットをお使いいただき開催することができました。

④ 福祉機器展等への出展

教職員、図書館員、福祉等の関係者が集まる会に参加し、「わいわい文庫」の周知を目的に展示を行っていますが、新型コロナの影響ですべて中止となりました。

⑤ 他団体主催の講演等への協力

主催団体の依頼を受け、講演や執筆を行い、財団事業の周知を行っていますが、2020 年度は 1 回の講演のみとなりました。

□2021 年 2 月 一般財団法人出版文化産業振興財団 (JPIC)
JPIC ONLINE『この本読んで!』勉強会

⑥ 伊藤忠商事株式会社と協働事業

伊藤忠商事(株)から支援されたタブレットにわいわい文庫を格納し、港区立の小中学校や都内の特別支援学校 31 校、院内学級 5 クラスに寄贈しました。この結果、長年の活動と本タブレット寄贈事業の功績が認められ、港区から感謝状をいただきました。

4. 電子図書普及事業部 経費内訳

	予算	実績
・製作・普及等事業費	10.2	8.2
・その他 経費	8.9	11.0
・人件費	22.4	22.0
計※3	41.5	41.2

※3 電子図書普及事業は、啓蒙活動としての研究会の開催が新型コロナの影響で中止となりましたが、動画配信やバリアフリー資料展等を開催することにより、予算通りの運営となりました。

2020年度（2020.4.1～2021.3.31）事業報告書の附属明細書

2020年度事業報告書には、一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則第34条第3項に規定する附属明細書については、事業報告の内容を補捉する重要な事項が存在しないことから作成していない。

2021年3月31日
公益財団法人伊藤忠記念財団